

作品を通して、一人でも多くの人を笑顔にしたい――

宝塚歌劇団「星組」の娘役として活躍した内野さん。退団後も意欲溢れる創作活動への挑戦を続け、令和2年度には、市総合スポーツセンター「ローズアリーナ」のキャラクターをデザインするなど、市内にも新たな笑顔の輪を広げています。

### 【成長の糧は厳しい環境】

宝塚音楽学校での学びは、その後の人生において貴重な財産になったと内野さんは振り返ります。

「在学中は、舞台で演じるために必要な技術を2年かけて習得しました。授業は、付いていくだけでもやっとなほどのカリキュラム。寮生活だったので、生活面でも厳しい指導を受けました。1年目は特に辛い日々が続きましたが、同期生が心の支えに。お互いに励まし合い、厳しい環境を乗り越えました。何事にもめげ

ずに挑戦する精神は、この時に鍛えられましたね」

【自分の力を試してみたい】  
華やかな歌劇団に進み、活躍を続けた内野さん。しかし入団13年目に、今後のキャリアを



(公財)静岡県舞台芸術センター 舞台監督  
うちのあきこ  
内野彰子さん(静岡市駿河区)

の思いが込み上げ、退団を決意しました。次に抱いた夢は脚本家。宝塚での経験から、俳優が命を掛けて演じたいと思える作品を書いてみたくなりました。退団後は、ドラマの脚本の一翼を担う職業に挑

考えるようになったそうです。「人を喜ばせることが大好きな私にとって、宝塚は最高のステージでした。しかしそこは、いつも守られている環境で、いわば『温室』。社会の荒波の中、自分を試したいと

戦。しかし、人の笑顔を間近で見ること無く完結する仕事に、やりたい事とのずれを感じました。その時、観客の熱気や感動を肌で感じる舞台に携わりたいと再認識。縁あって静岡県舞台芸術センター

(SPAC)の一員となり、今は舞台監督を務めています」

【人の笑顔が挑戦の原動力】  
長年、人の笑顔に支えられた内野さんの創作活動。次なる挑戦が、島田市との縁を生むこととなりました。

「今は舞台監督として、毎回異なるお客さんの反応を、生で感じていきます。笑顔で溢れる客席を見たときは、本当に幸せな気持ちになります。私にとって、お客さんの笑顔が一番の喜び。それが新たな挑戦への力となっています。今回、イラスト制作は初めてでしたが、母の実家がある島田市に、自分の作品で笑顔を生みたいとの思いから、『アポロローズちゃん』を描きました。見る人が自然とほほむキャラクターとして、愛してもらえたらうれしいです。この縁をきっかけに、今後は市内にも舞台作品を届けることがひとつの夢。多くの人が喜ぶ作品を提供できるよう、チャンネルを続けていきます」  
挑戦から生み出される内野さんの作品は、これからもまさに笑顔の輪を広げます。



宝塚歌劇団のステージで演じる内野さん

Shimadajin File #132

Story 島田人